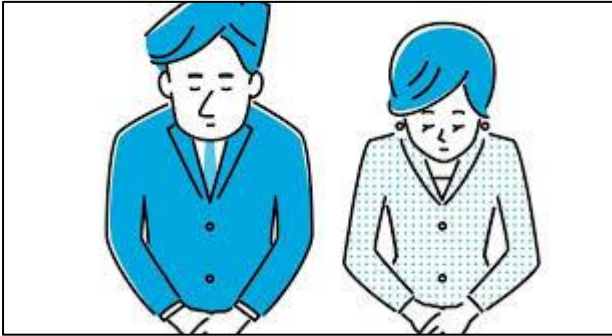




日本語に隠された思い



ずいぶん前の話です。公衆電話が街のあちこちら設置されていた時代のことです。

正月、晴れ着姿の2人の女性が背中をこちらに向けて少し先にある公衆電話で話をしている姿が見えました。美しい後ろ姿でした。どんなに美しい女性なのだろう、期待が大きくなりました。

近づく、と、会話の声が聞こえました。後ろ姿からは想像できない品のない言葉で話していました。一瞬にして期待も何もかもが吹き飛んでしまいました。また、言葉を意識した初めての瞬間でした。

言語は、文化を映す鏡と言われています。欧米などのストレートな表現に対して、日本の言葉には隠された思い、奥ゆかしい表現がたくさんあります。

「すみません」という言葉があります。相手への謝罪や感謝などの気持ちを込めて使う言葉です。由来は、動詞の「済む」を打ち消した「済まぬ」「済まない」の丁寧表現です。また「澄む」と同じ語源で、「濁りや混じり気がなくなる」という意味があり、そこから「終了する」や「気持ちが収まる」という意味も持ちます。

贈り物を受け取った日本人が「すみません」と言ったのを見て、「なぜ謝るのか」と疑問に思った外国の人がいました。調べてみると「すぐにお返しをしていないので、気持ちが収まらない」という意味で「すみません」という言葉が使われると分かったそうです。

その外国の方は、日本人の義理堅さや真面目さに驚いたそうです。

「いただきます」食事の前に両手を合わせていう言葉です。

何をいただくのでしょうか。「命」です。すべての生き物には、命があります。動物はもちろん、植物にも命はあります。その命を、自分の命をつなぐためにいただくのです。そのことに感謝の気持ちを込めて「いただきます」と言って、静かに手を合わせます。手を打つではありません。仏様の前とまったく同じで静かに手を合わせて感謝を表します。

「ご馳走さまでした」食事が終わった時にいう言葉です。

「馳走」とは元々走り回ると意味でした。これが、食事を用意するために、走り回って食材を集め、調理してくれた全ての人にその労力と心遣いを感謝する意味で使われました。

このように日本語には隠された思い、息づく奥ゆかしい表現があります。その思いや表現を大切にしていきたい。言語は、文化を表すだけでなく、文化そのものを作り出し、それを使う人々の価値観を生み出します。言葉の乱れが言われてずいぶん経ちます。子ども達にはこの素晴らしい日本語を大切にしてほしい強く願います。

校長 篠崎 勇